

### 第33回仙台市動物愛護協議会 議事録

開催日時	令和6年2月1日(木) 14:00~16:10
開催場所	宮城野区中央市民センター3階 第3会議室
委員 (順不同・敬称略)	水越美奈(会長) 小野裕之(副会長) 木村孝 後藤美佐 齋藤和平 齋藤千映美 細井戸大成 町屋奈 (欠席=なし)
事務局	健康福祉局保健衛生部長 同保健管理課長 同動物管理センター所長 同動物管理センター管理係長 同動物管理センター管理係総括主任 同動物管理センター管理係主任
次第	1. 開会 2. 挨拶 3. 議題 (1) 第5回人と猫との共生分科会について (2) 令和5年度仙台市動物愛護アクションプラン実施状況について (3) 令和6年度仙台市動物愛護アクションプラン(案)について (4) その他 5. その他 6. 閉会

発言者等	議題、その他の詳細
水越会長	それでは、次第に沿って議事を進行していきたいと思えます。委員の皆様、ご協力のほどよろしくお願ひいたします。 それでは、事務局より、(1) 第5回人と猫との共生分科会についてご説明をお願ひいたします。
動物管理センター所長	《資料に基づいて説明》
水越会長	ありがとうございます。 ただいまの説明について、何かご意見、ご質問等はございますでしょうか。 それでは、次に議題(2)の令和5年度仙台市動物愛護アクションプラン実施状況と、議題(3)令和6年度アクションプラン(案)について、続けて事務局よりご説明をお願ひします。
動物管理センター所長	《資料に基づいて説明》
水越会長	ありがとうございました。 それでは、今のご報告の補足として、小野委員から、飼い主のいない猫の避妊去勢手術費用の助成事業について、ご報告、ご意見をいただきたくと思えます。
小野副会長	それでは、仙台市獣医師会から補足の説明をさせていただきます。

	<p>資料5をご覧ください。上の表が飼い主のいない猫の避妊去勢事業に関する実績になります。予定頭数は、前年度710頭前後から市の予算の増額に伴って800頭になっています。そしてその結果が、2段目の表で令和5年12月まで計729頭となっています。実は1月31日の時点で、予約が800頭に達している状況で、昨年は1月12日でしたので少し延びましたが、9月から急に頭数が増えた時期があり、今年度も年度途中で終わりとなりそうです。次年度についても、センターと相談をしている段階です。次の資料の説明をさせていただきます。</p> <p>譲渡促進事業として、獣医師会では収容された猫の避妊去勢の手術を引き受けております。今年の実績は42頭です。年ごとに数が変わるので、前年度はたまたま数が少ないですけれども、収容頭数が少なかったこともあるので、それなりにやっているということだと思います。</p> <p>数ヶ月前にたまたま札幌動物愛護センターを訪れる機会がありました。他の市町村は収容された避妊去勢を市の職員の方がやられるところが案外多いです。仙台市は僕ら開業の先生が引き受けるということで、1頭5千円とすごく安く行っている。札幌市のセンター職員の方は異動もあり大変だと言っていましたので、そういうところを考えると、技術的に安定していて金額的にもやれている限りは、会員の方にも何とか頑張ってもらい、引き続きやっていければいいなと思っております。</p> <p>次に、狂犬病予防注射の実績を、仙台市のデータとまとめたのがこの表です。指定獣医師が行った注射頭数は前年度より492頭減になっています。</p> <p>登録頭数は、指定獣医師では少し増えています、指定外と合わせると減っております。減り方は少し緩やかなのかなと思っております。この先は犬の飼育頭数が激減していくのではないかとされている中で、気になっているところです。</p>
水越会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>続いて、後藤委員より、動物介在活動の普及推進について、補足のご報告、またご意見をお願いいたします。</p>
後藤委員	<p>NPO法人エーキューブから報告いたします。</p> <p>今年度も仙台市動物管理センターと協働で仙台市内の小学校にて動物介在教育を行いました。新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことにより、学校教育活動においては、マスクの着用を求めないこととなりましたが、私たちはマスクの着用・消毒・換気など引き続き感染症予防対策を行いました。今年度は小学校にて行う介在教育だけで、資料にありますように、未実施含め18校、24回となっております。</p> <p>その活動を継続するためにも私たちがり患することのないよう、今後も感染症予防対策はしっかりと行っていきたく思います。</p> <p>今年度、活動の申し込みを多くいただきましたが、本年は特に学校側が希望する日程が同じ時期に多く集まり、日程の調整に大変苦慮いたしました。</p> <p>日程を変更してでも活動を行って欲しいと、日程調整にご協力いただいた結果18校の活動に繋がりました。また、この活動を経験された先生が新しく赴任された小学校でも申し込みをされたという声を聞くことが増えています。</p> <p>2015年度小学校で行った動物介在教育は7校、去年は11校16回程度でしたので、着実に認知されてきていると実感しております。</p> <p>事後学習として児童達からは感想をいただきますが、正しい犬との接し方や実際に触</p>

	<p>れ合った経験から、児童達は印象に残ったことを一生懸命表現して書いてくれています。その中で、犬に初めて触ったという声も多くありました。</p> <p>また先生方からも、犬との触れ合いを楽しみにしていた児童も、また少し不安に感じていた児童も、どちらも安心して活動できるプログラムに感服した、児童たちにとって心躍る経験に身を乗り出して引き込まれていたなどの言葉をいただいております。</p> <p>しかし、課題も多く、様々なイベントで動物介在活動・教育の紹介を行うと素晴らしい活動ですねなど、好意的な声を大変多くいただくのですが、一緒にボランティアしませんかに対しては、今は無理、仕事をリタイヤしたらなど、新しい会員や活動犬の獲得にはなかなか繋がらない状況です。安全で安心な活動をこれからも継続して行うためには、皆様の力添えをこれからもよろしく願いいたします。適正な飼い主さん、犬がたくさん集まるであろう動物病院やしつけ教室は私たちにとっては宝の宝庫と感じております。先生方には特にお力をお貸しいただきたいと思っております。</p> <p>以上報告とさせていただきます。</p>
水越会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、ご報告いただきましたので、令和5年度アクションプランの実施結果及び令和6年度アクションプラン（案）について、ご意見、ご質問はございますでしょうか。挙手をお願いいたします。木村委員、お願いいたします。</p>
木村委員	<p>飼い主のいない猫の不妊去勢手術実施状況ですが、センターさんの努力もあり、順調に頭数が増えている。ただいま報告ございましたようにあいにく予算が2月、3月は0になるわけですが、予算あればできると思うので、市の予算だけではなくもっと別な形でお金を集められないだろうか。</p> <p>他の自治体であれば、例えばふるさと納税とか、クラウドファンディングなど、別な手段をご検討されてはいかがなものかと思ってお話させていただきました。</p>
水越会長	<p>ありがとうございます。お願いいたします。</p>
動物管理センター所長	<p>仙台市の猫の手術につきましては、ふるさと応援寄付と一般財源を合わせて令和5年度は488万で実施させていただいております。令和6年度につきましても同水準で、実施できるものと考えております。ふるさと応援寄付につきましては、数年前の寄付の実績をもとに、財政から予算をつけられるので、毎年付与額が変化します。事業への補助が継続できるよう、このふるさと応援寄付が少しでも周知されればよいとは考えております。引き続きその避妊去勢事業の拡充につきましては受け入れの獣医師会と協議しながら進めていきたいと思っております。</p> <p>またクラウドファンディングについては、今後の課題として、現段階ではふるさと応援寄付を活用しながら、その財源を確保していきたいと考えております。</p>
水越会長	<p>ありがとうございます。実際に飼い主のいない猫の死体数が減っているであるとか、結果がでているとおもうんですけど、一方で鳴き声の苦情が少し増えていたり、子猫の收容が増えていたりというようなところを考えると、まだまだこの避妊去勢手術の事業は必要だと思われま。おそらく温暖化などで繁殖の期間が昔に比べると長くなっているということもあるのかもしれない。費用がかかるところではありますけども、検討をしていただきたいと思います。</p> <p>他に何か。後藤委員、お願いいたします。</p>

後藤委員	<p>2の地域猫活動への支援というところで、地域猫活動に関する市民説明会が宮城野区と太白区で2回行われたということですが、青葉区、泉区では、なぜ行われなかったのかと疑問に思いました。市民説明会があったから後に宮城野区の町内会で19頭くらい手術できたと同だったので、例えば半分くらい雌であれば、そこで50頭くらい子猫たちが生まれるのを防げたのかということを見ると、全区でやっていただきたいと思いました。</p>
動物管理センター所長	<p>市民説明会につきましては過去3年、各区で1回の合計5回行っております。区に限らず開催の1・2回につきましては、参加者数が比較的多かったんですけど、3回目以降参加者が伸びないという状況でした。また、各区の苦情・相談数を見たときに、太白区と青葉区、宮城野区が多かったことから太白区と宮城野区で開催することとし、募集は全市から行うため、比較的集まりやすい場所を設定し実施しました。</p> <p>ちなみに回数は2回と減らしておりますが、昨年よりも参加人数は増えております。来年度以降、回数を含めてどのように進めていくか、例えば週末とか夜に開催する等、開催方法についても検討したいと思います。今日のご意見も、踏まえて、次年度以降の事業に反映させていければと思います。</p>
水越会長	<p>細井戸委員お願いいたします。</p>
細井戸委員	<p>市民説明会参加者の70%が町内会役員の方々ということでしたが、どの地域でも町内会や自治会の役員は地域活動への関心も高く、熱心な方が多い反面、なり手が少なく、固定化されていると思います。</p> <p>地域差があるとは思いますが、斎藤委員のような町内会会長会との連携を強め、各町内会役員の方々のご意見を尊重しながら説明会を開催することは非常に効果的だと感じるので、そのような方法をうまく組み立て欲しいと思いました。</p> <p>これは質問というよりも私からの意見ということで。</p> <p>斎藤委員にお聞きしたいのですが。</p> <p>町内会会長会で市民説明会開催への協力要請をした場合、地域問題になっているのでみんなでなんとかしようという感じなのか、行政からの要望なので仕方ないなあという程度なのか、その辺りのニュアンスを教えてください。</p>
齋藤(和)委員	<p>総会や第1回班長会で、例えば公園に犬の放し飼いが多くとか、捨て猫にえさをやっている人がいるという話がでていた。こういう苦情は会長もしくは環境部長さんに話があるので、餌をやっている人に話を聞くと、「自分も猫を飼っていて、野良猫が何度か来るのでかわいそうだから餌をやらざるをえなかった。えさやりはやめろということですね。困ったという人がなぜ来ないのか」と言われてしまう。</p> <p>こういう苦情は町内会が対応しているケースが多いんです。</p> <p>だから、機会あるごとに私は研修会をどんどんやってもらって構わないと思っている。広く声をかけなければいけないんでしょから、私もこういう立場にありますし、市連協会とか各区の協議会で検討することだと思うので、改めてこういう時に皆さんに講師として来ていただければありがたいのかなとおもいます。最後に一つ。</p> <p>仙台に地域防災リーダー、SBLという災害時にリーダーなる人もいます。これと同じように、連合か各町内会にそういう研修した人が1人か2人いてくれると、町内会長とか役員会で犬がうるさいとか公園で犬が離れているとか、野良猫が来て困るとかの話がでたときに、一緒に行ってくれないかとかお願いするとか、行政からもお願いで</p>

	<p>きるような形で、リーダー制度みたいなものを、将来作ってもらえると非常に助かる。そうすると我々も町内会も非常に勉強になるとともに、苦情なんかを少し逃げられて助かるなという感じがしております。以上です。</p>
水越会長	<p>非常に素晴らしいご意見だと思います。東京都杉並区では区独自の相談員制度というものがある、相談員さんが区の職員さんと一緒に相談などに立ち会うというのもあるので参考にされるといいかなと思いました。</p> <p>杉並区の相談員は、7・8回の講習会を受けて、登録をして、犬部会と猫部会があってということだったと思います。</p> <p>その他、ご意見は。町屋委員。</p>
町屋委員	<p>資料2の(7)で飼い主のいない猫に関する苦情対応で、一つ目は、引取および収容した猫の頭数と書かれていますが、これを引き取った理由・背景を教えてくださいということと、あと、引き取った際にどのぐらいウイルスの保有率、猫白血病や猫エイズウイルスの保有率があるのかということも、もしデータがあれば教えてください。</p> <p>もう一つが動物介在教育のところで、資料6、資料3のアクションプラン重点事業に書かれておりますけれども、こちらが本当に活発で羨ましいなと思って、説明をお聞きしておりました。ちょっと伺いたいのが、命の教育、動物介在教育の教えの中に、対象となる動物っていうのはあるのでしょうか。例えば、ペット、犬猫が中心となるのか、それともこの「命」っていうところを広くとらえて展示動物だったり、産業動物だったりとかも含めて、教えていらっしゃるのか、教えていただければ参考にしたいなと思っております。</p>
センター	<p>事務局の方から回答したいと思います。</p> <p>まず、引取り及び収容した猫の頭数は、飼い主から引き取ったものと収容した猫の合計数で、今年度は236頭のうち飼い主からの引取りは多頭や飼い主死亡などの理由で8頭です。成猫に関してはウイルスチェックを行っており、飼い主から引き取ったものはすべて陰性でしたが、それ以外の猫については陽性のものも若干あります。</p>
後藤委員	<p>動物介在教育については、いのちの授業という形で行っており、エーキューブ単独で小学校6年生を対象としたときは、ペットショップで出会うこともあるけれども、こういった動物管理センターなど保護された動物でも新たに家族になれるんだよという話をしています。</p> <p>また、センターと協働でやる活動は、ほとんどが1・2年生なので、身近な動物である犬の話をしています。ふれあいをしている間に犬を連れているハンドラーが子供たちとお世話の話をしているんですが、私たちはボランティアで、一般家庭の中で犬を飼っているの、犬とのきづなについてお話している。</p>
町屋委員	<p>活動が広がっていて、次世代の教育に深く関わっていらっしゃいます。日本の現状の問題として、命の不平等がおこっていて、ペット中心になっている。</p> <p>もし可能であれば、今後、犬猫以上に私たちの身近な存在である産業動物にもちよつとでも触れていただければなと思っております。</p> <p>というのが今ある食育って死んでからいただきます、大切に命をいただきましょうという教育がメインになっていますけれども、実は真の食育とは「命」って、その生きていく間の状態を考えることだと思っております。そのような教育が日本では、まだま</p>

	<p>だ発展途上なのかなと感ずるところがありますので、お願いでした。 ありがとうございました。</p>
水越会長	<p>はい、小野委員。</p>
小野委員	<p>私からは資料2の多頭飼育問題の話の中で、括弧、4の(1)のところ、局内の福祉部門との連携って話があったんですが、これすごく大事だなと思って。 先日、区役所の職員からとあるボランティアさんに、猫が飼えなくなったので引き取って欲しくないかという話があったとのことで、なぜ、その区役所の職員からボランティアさんに話が行くのかなって思っていて、システム的には、動物管理行政の方が何らかの形でかかわるべきじゃないかということもあるし、多頭飼育問題も含めうまく連携できないのかなと思っている。例えば、福祉部門だけじゃなく、引越して飼えなくなったとき市民課などから相談を受ける、そういったところとの連携みたいなものが、リアルタイムで行える、何か問題が起こった瞬間にうまく動けるようなシステムを作っていけないのかなと思います。縦割りの仕事の中で、横の連携って作りづらいのかもしれないですけど。何かいい方法、その辺の考えとか、何か教えていただければなと思います。</p>
センター所長	<p>今副会長からお話あった件について、区役所の担当の方が、こちらに捕獲器を借りに来たと聞いております。センターへ地域包括支援センター等福祉機関から相談を受けた際には、飼い主から新しい飼い主を探すようお願いしているところです。福祉機関以外にも訪問先で猫が増えているとか、区役所保護課や家庭健康課から相談があるさいに相談になっております。引き続き、他部署と情報を共有できるよう、啓発しながら、連携していきたいと考えております。</p>
水越会長	<p>多頭飼育だけではなくて、独居の高齢者が1頭だとしても飼えなくなったというようなことを介護士さん、包括支援センターなどで把握していたりすることなどがあると思いますので、今後必要になってくる課題だと思います。 では、そのほか。木村委員。</p>
木村委員	<p>マイクロチップの件でお尋ねしたいんですが、ここ近年、販売時には入っているが、捕獲された犬猫はマイクロチップでどの程度たどれているのでしょうか</p>
センター所長	<p>今年度収容された犬でマイクロチップが入っていた比率は22%でした。 猫に関しては、2%と低い状態です。マイクロチップによる返還数は、犬と猫で挙げさせていただいておりますが、まだまだ少ないと思っております。別件で犬猫が自宅から逸走し、探しているという問い合わせ情報から確認してみると、犬で31%の方がマイクロチップあり、猫で16%の方がマイクロチップありでした。 犬を探している方の中には、マイクロチップが入っているのか不明が31%ありました。引き続き、飼い主へのマイクロチップの装着の有無、登録等、動物取扱業者とあわせて啓発していきたいと考えております。</p>
細井戸委員	<p>ミルクボランティアのことですが、東日本大震災時以降の仙台市の取り組みから学び、大阪市と大阪市獣医師会でも導入しました。 250グラム程度、これは凄くいい線をついていて、いい表現だと思いました。 自身の経験から、300グラムになっている子猫は比較的上手く育ち、200グラム以下の子猫は死亡率が高くなると思っております。 ただ、動物愛護を議論する上で、ノーキルを主張する愛護団体の方々がミルクを飲め</p>

	<p>ずに衰弱している子猫の安楽殺処分を攻撃対象にしてきた際に、私はこの行為は動物福祉の上でも極めて正しいと思っていますが、回答する側が困難な状況に追い込まれる可能性があるので、科学的な根拠や統計的な分析が行えるような資料を残しておいた方がいいと思います。</p> <p>このような攻撃については、私も苦勞したこともあるので、科学的な根拠や統計的な数字を準備しておいて、殺処分への攻撃への対応を上手くして頂ければありがたいなあと感じました。</p> <p>そして、あまり騒がれないためにも 250 グラム程度という表現はとてもいいと思います。また、処分数だけを取り上げるマスメディアもあるので、理論武装をしておいて欲しいと強く思います。</p>
水越会長	<p>どうもありがとうございます。</p> <p>時間も迫ってきておりますがご意見あるという方はいらっしゃいますか。後藤委員。</p>
後藤委員	<p>石川県の地震のことについて、今回ペットを連れた避難者がどうしていいかわからないという情報がありました。</p> <p>ただ、仙台市の場合は仙台市 避難所 ペットという形で、検索すると、置き去りにしないで同行避難するようというふうに書かれているのはありますが、仙台市動物管理センターと協働で、同行避難についてずっと啓発させていただいておりますが、結局地域の避難所情報、ここに避難所があります。小学校です、っていう記載はありますが、じゃあペットはどういうふうなところに置かれるんだという情報を伝えられることがない。自分で事前に調べましようといっても、町内会などに情報が取りにくく躊躇する方が多いとおもう。外か中かで準備するものが違うと思うので、情報が取りやすくなるよう、様々な連携をして情報提供を考えてもらいたいと思います。</p>
水越会長	<p>令和5年の8番、譲渡をされた犬猫に関して、アフターフォローのためのチェック表を送付しているのは、素晴らしい取り組みだとおもいます。これは本当に必要なことだと思いますが、他の自治体等ではできていない取り組みです。非常に良い取り組みだと思しますので今後も続けていただければと思います。どういう指導が必要だったかっていうのを、もしありましたら教えていただきたいというのが1点です。</p> <p>もう一つはですね。令和6年度、資料3、1ページで、排せつの問題についての苦情が多いということで犬の飼い主に対して、散歩の前に自宅で排泄を済ませること、とあります。言葉の問題なんですけども、散歩時には万が一排泄をした場合に備えて、とありますけど、万が一という言葉はしないという前提になりますが、排泄は体が動くとしてしまうものなので、私は飼い主さんに対しては、家でウンチをして散歩にでかけると、帰りの荷物、つまりうんちが少なくなるのでいいですよというような説明をしています。万が一という言葉は誤解を示し、それであればうんちの処理袋を持っていなくてもいいんじゃないか、と思われてしまうかもしれないので、文言の整理をしていただければなと思います。以上です。</p>
センター所長	<p>フォローアップの部分で昨年度の実績から言います。</p> <p>譲渡した方約160件にフォローアップのためのアンケートを実施しております。譲渡の際に避妊去勢、ワクチン接種していないものについては、必ずしてくださいという条件でお渡しているのですが、アンケートで実施していないという回答があれば、連絡して確認、指導をしているところです。あわせてマイクロチップ装着の啓発を行うほ</p>

	<p>か、飼育するにあたって困っている相談については、猫分科会の参考の中の資料4に、実際に飼育にあたって困っていること等について、回答をまとめたものを皆さんに送付しております。</p> <p>具体的な内容としては健康不安、病気、太ってきた、いたずらがひどい、椅子で爪とぎをしてしまうなどの相談、ご意見としては非常に元気にしている、ボランティアさんに感謝しているなどございます。資料をご自身で読んでもらって、更に不明な点がございましたら、センターにご相談くださいという形で対応させていただいております</p>
水越会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、議題1から議題3については承認されたものといたします。</p> <p>委員の先生方におかれましてはご意見等ありがとうございました。</p> <p>続いて議題4、その他になっておりますが、何かこの場で協議したい案件等ございますでしょうか。</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、議題はここまでですので、進行を事務局にお返しいたします。</p>
進行	<p>水越会長、ありがとうございました。</p> <p>続きまして、次第5のその他でございますが、何かご意見やご質問はございますでしょうか。</p> <p>ないようでしたので、事務局から挨拶をさせていただきます。</p>
動物管理センター所長	<p>本日は円滑な協議会の運営に委員の皆様方ご協力いただきまして、ありがとうございました。</p> <p>また、たくさんのご意見をいただきましてありがとうございました。</p> <p>本日も承認いただいた令和6年度のアクションプランに基づいて、本市の動物愛護行政を進めてまいりたいと思います。</p> <p>なお、本日の議事録については、原稿ができ次第、各委員にメールや郵送でお送りいたしますので、修正等あればお申出ください。ご協力よろしく願います。</p> <p>本日は長時間にわたりご協議いただきまして、ありがとうございました。</p>
進行	<p>以上、これをもちまして第33回仙台市動物愛護協議会を閉会いたします。</p> <p>委員の皆様、本日は長い時間ありがとうございました。</p>

令和6年3月2日

署名委員

後藤美佐